

令和2（2020）年度の県立美術館企画展概要（案）

| No. | 展覧会名                           | 開催形態                   | 会 期                     | 開催<br>日数 | ジャンル        | 概 要   | 備 考(巡回先等)  |
|-----|--------------------------------|------------------------|-------------------------|----------|-------------|---|--|
| 1   | ムーミン展<br>THE ART AND THE STORY | 巡回展、実行委員会<br>方式        | 4月11日（土）～5<br>月31日（日）   | 44       | イラスト、<br>海外 | フィンランドを代表する芸術家、トーベ・ヤンソン（1914～2001年）が生み出した「ムーミン」シリーズは、キャラクターたちの愛らしい姿とユーモアあふれる言葉で世界中にファンを持ち、小説、絵本、新聞連載コミック、アニメ、商品などさまざまなかたちで親しまれている。本展では、その多彩なアートと奥深い物語の魅力を、約500点の展示品で紹介する。ムーミンの小説、絵本の挿絵や表紙を原画やスケッチで展示し、また、イースターカード、アドベントカレンダーの原画、銀行の広告など、小説や絵本では見たことがないムーミンとその仲間たちの多彩な表情にも触れることができるものである。  | 金沢21世紀美術館（市民ギャラリーB） 9月28日～10月24日<br>松坂屋美術館名古屋 12月7日～2020年1月19日<br>大阪・あべのハルカス美術館 令和2年7月4日～8月30日<br>札幌芸術の森美術館 令和2年9月12日～11月3日<br>熊本市現代美術館 令和2年11月14日～令和3年1月11日<br>岡県立美術館 令和3年1月23日～3月14日 |
| 2   | Human and Animal<br>土に吹き込まれた命  | 巡回展                    | 6月13日（土）～8<br>月23日（日）   | 62       | 現代陶芸、<br>海外 | 国内外5作家による現代陶芸展。土をあらためて造形の素材と捉え、彫刻的な土のさまざまな可能性に迫る。出品作家は奈良美智（日本）、Beth Cavener Stichter（ベス・カヴェナー）（アメリカ）、Stephanie Quayle（ステファニー・クエイル）、Susan Halls（スーザン・ホールズ）（イギリス）、Kim Simonsson（キム・シーモンソン）（フィンランド）（予定）。これら5作家の作品は、土という素材の特性を生かしてスピードや躍動感、リアリティを表す。また素材のテクチャーを生かすことで、現代のポピュラーカルチャーや原初的な素材感と向き合い、人間や動物の”生きる”というテーマに迫っている。今世紀のグローバル化のなかで、混沌とした陶芸の現在を、今注目される世界各地の作家たちの作品を通して紹介する。 | 滋賀県立陶芸の森 2021年6月-<br>国内2～3カ所を巡回予定  |
| 3   | 小さなデザイン 駒形克己展                  | 巡回展                    | 9月5日（土）～<br>11月3日（火祝）   | 52       | デザイン        | シンプル素材で豊かなコミュニケーションの可能性を探る絵本づくりで知られる、デザイナー、駒形克己（1953-）。日本デザインセンターを出発点に、ニューヨークのCBSで研鑽を積んだ駒形は、帰国後、絵本制作やワークショップなど、グラフィックデザインにはとどまらない様々な活動に取り組んできました。本展は、絵本をはじめ、約40年にわたって駒形が手がけてきたデザインワークを、ドローイングやプロトタイプ、映像、インスタレーションを通じて紹介し、そのデザインの思考とプロセスを紐解いていくもの。会場には絵本を実際に触れることのスペースもご用意するなど、駒形のデザインを体感できる展覧会となる。  | 板橋区立美術館 2019年11月23日-2020年1月13日<br>足利市立美術館 2020年11月10日-   |
| 4   | 東山魁夷 唐招提寺御影堂<br>障壁画展           | 巡回展、実行委員会<br>方式        | 11月14日（土）～<br>12月27日（日） | 38       | 日本画         | 東山魁夷（1908-1999）は、戦後日本を代表する国民的日本人画家として知られ、清澄な色彩と平明な描写の中に深い精神性と豊かな叙情を湛えた風景画は、日本人の自然観や心情を普遍的に表現したものとして多くの人々に親しまれている。なかでも「唐招提寺御影堂障壁画」は、東山が鑑真和上に捧げるために10年もの年月をかけて完成させた全68面の襖絵で、東山にとって記念碑的大作であり高い評価を得ている。通常は拝観も難しい本作が一堂に展示される本展は、東日本大震災から10年の節目を眼前に控える2020年に、東北の更なる復興を祈念・支援したいとの趣旨に基づき開催されるものである。   | 宮城県美術館 9月19日-11月1日   |
| 5   | 唐武と芸術写真の時代                     | 自主企画                   | 1月16日（土）～2<br>月14日（日）   | 26       | 写真、岩手       | 明治末期から昭和初期にかけての日本では、アマチュア写真家たちを中心に、記録という本来の機能を超えて写真に芸術性を求める動きが台頭し、「芸術写真」と呼ばれる絵画的な写真表現（ピクトリアリズム）が全盛を迎えた。本県でも明治末頃から、盛岡を中心に各地で写真団体が結成されるようになり、大正期に入ると全国的に名を知られる写真家も登場してくる。<br>本展は、大正末期から戦前に県内の写真界をリードした唐武（から・たけし）の作品を中心に、岩手における芸術写真の展開をたどる。  |  |
| 6   | アートフェスタいわて2020                 | 自主企画、県芸術祭<br>実行委員会との共催 | 2月27日（土）～3<br>月21日（日）   | 20       | 岩手          | 本展は第17回目の展示。2020年秋に開催される第73回岩手芸術祭美術展の受賞（芸術祭賞、優秀賞、奨励賞）作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞれから推薦された美術家たちの作品100点。令和元年に受賞した平成30年度岩手県美術選奨受賞作家5人の作品も併せて展示。   |  |